

屋根材 台風・積雪に強く

屋根材を手掛ける川上

板金工業所（香川県まんのう町）は台風や積雪に

強い工場や倉庫向け屋根材を開発した。金属製の

折板屋根で、独自の加工技術によって溝のような

形状の山高（高さ）を引き上げ強度を5割高め

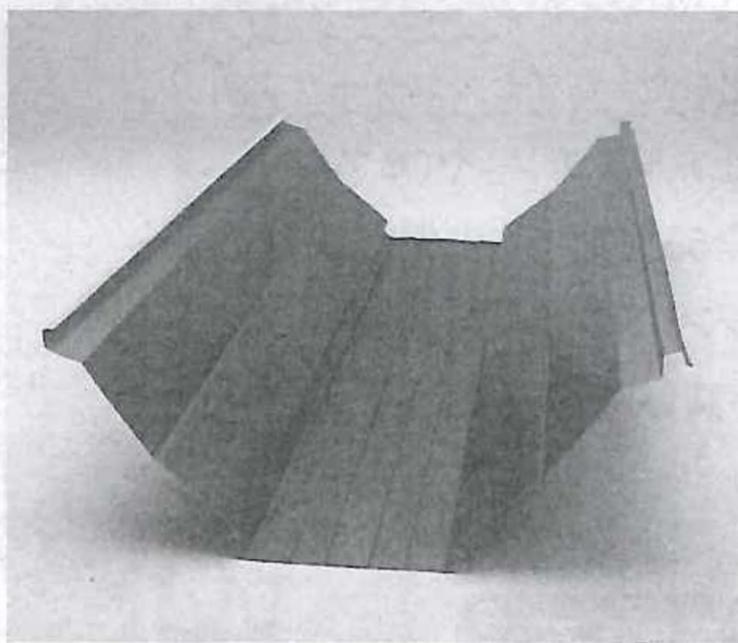
た。屋根材1本あたりの働き幅（幅）も広げて屋

根材同士の接合力所を減らすことで、軽量化とコ

スト抑制を実現。業界最高レベルの高強度屋根として販路を開拓する。

川上板金、軽さと両立

形状工夫、コスト抑制



折板屋根「アドバンス」は約3000万円をかけた開発した。厚さ0.8〜1.0ミリの合金メッキ鋼板などを使う。断面

形状は高さ20・6センチ、幅60センチ、長さは50センチまで対応できる。同社の従来製品と比べて高さは3割高い。積雪や太陽光パ

川上板金工業所 1934年創業、社員41人。皇居の屋根工事や金刀比羅宮（香川県琴平町）の玄関口となるJR琴平駅の耐震・改修に携わるなど、技術力への評価は高い。2017年1月期の

売り上げは12億円。「台風災害ゼロ」を目標に開発してきた折板屋根「クローザーシリーズ」が売り上げの6、7割を稼ぐ主力製品で、東日本大震災の被災地にも採用されている。

高めた新製品を投入し「クローザーシリーズ」として改良してきた。今回のアドバンスは側面内側にやや食い込む「くび

ネルの重さ、強風によって押しされたり引っ張られたりする圧力への強度を

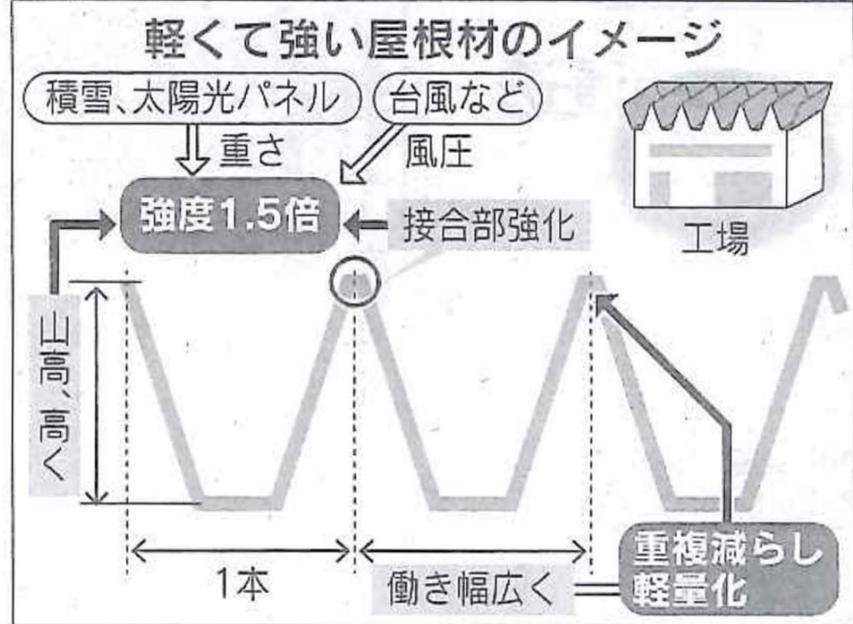
それぞれ1.5倍にした。固定するビス留め用の貫通孔がいらぬ「ハゼ締め」を採用し、防水性も高めている。

アドバンスは側面にさざ波を入れて陰影をつけるなどデザイン性にもこだわる。美しさも兼ね備えている点などが評価され、17年10月発表の日本

1室1泊40万〜100万円で瀬戸内海の新しい楽しみ方を提案する小型豪華客船「ガンツウ」が17日、就航した。写真。拠点となるベラビスタマリーナ（広島県尾道市）では切り妻屋根の独特の外観が目を引く船に13組25

人のクルーズ客が乗船。住民らが見送る中、ゆっくりと岸壁を離れた。出港前にあいさつした運航会社せとうちクルーズ（同）の城暁男社長は「新しい瀬戸内の価値を創りあげ、瀬戸内全体の発展と地域創生の一翼を

デザイン性にもこだわった折板屋根「アドバンス」



軽く強い屋根材のイメージ。積雪、太陽光パネル、台風など風圧。強度1.5倍。接合部強化。工場。山高、高く。1本。働き幅広く。重複減らし 軽量化。

長年の加工ノウハウと新ラインの導入により、幅は2割広い独自規格にした。工場の屋根では通常、100本規模で並べて使うが、幅広になるため接合力所が減少し、屋根全体の軽量化と材料コストの低減になる。現場での施工効率も高まる。1物件あたりの納入額は、材質や施工本数によ

同社が災害に強い屋根の開発に乗り出したのは、2004年に香川県内でも死者が出た台風被害がきっかけ。10年に耐風、耐震、耐火の強度を

「高級宿」出航。ガンツウ、瀬戸内へ。1室1泊40万〜100万円で瀬戸内海の新しい楽しみ方を提案する小型豪華客船「ガンツウ」が17日、就航した。写真。拠点となるベラビスタマリーナ（広島県尾道市）では切り妻屋根の独特の外観が目を引く船に13組25人のクルーズ客が乗船。住民らが見送る中、ゆっくりと岸壁を離れた。出港前にあいさつした運航会社せとうちクルーズ（同）の城暁男社長は「新しい瀬戸内の価値を創りあげ、瀬戸内全体の発展と地域創生の一翼を

